



おもちゃ箱とめ（児発） 事業所における自己評価総括表

事業所名	おもちゃ箱とめ				
保護者評価実施期間	令和 8 年 3 月 2 日		～	令和 8 年 3 月 23 日	
保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数)	1	
従業者評価実施期間	令和 8 年 3 月 6 日		～	令和 8 年 3 月 17 日	
従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	12	
事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 3 月 25 日				

○ 分析結果

	事業所の強みだと思われること	工夫していることや意識的に行っている 取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者、関係機関と情報共有を行い連携を取っていること	利用児童や保護者の様子に少しでも違和感やトラブル等があった際は、すぐに連絡を取り、関係機関とも必要に応じてやり取りを行っている。	こちらからの情報の吸い上げがなくても、保護者から困りごとを積極的に発信できるような聞き取りができるようにしていきたい。
2	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされている点	管理者への報告の徹底、共有しているご家族の緊急連絡先やかかりつけ医に対して、速やかに連絡することを意識して行っている。	ヒヤリハット報告書をさらに活用して、状況の詳細な把握に努めています。
3	事業所の支援に満足していること	・休日や長期休業中には外出や買い物学習、調理実習などの活動を取り入れ、社会経験を積めるように工夫している。	これからも保護者のニーズを把握し、より細やかな支援をめざしていきます。

	事業所の弱みだと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等	必要
1	児童発達支援の利用者数が少なく、同世代の友達との関わりが少ない。	小学生以上の利用者で定員がいっぱいになってきている。	相談支援事業所とも連携して、利用希望の未就学児の確保に努める。	
2	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていない。	現状、機会を設定するのが厳しい。	事業所には、ペアレントトレーニング研修修了者が2名在籍しているので、実施していきたい。また基幹センターでの受講も検討していきます。	
3	保護者同士へのつながりへの対応について	放課後デイに比べ児童発達支援は利用者が少なく、児童への個別療育を行っているため、保護者同士のつながりを促す取り組みができていない。	就学への不安が出てくる時期でもあるので、今後は放課後デイの保護者を含めて保護者会等を開催していきたい。	